

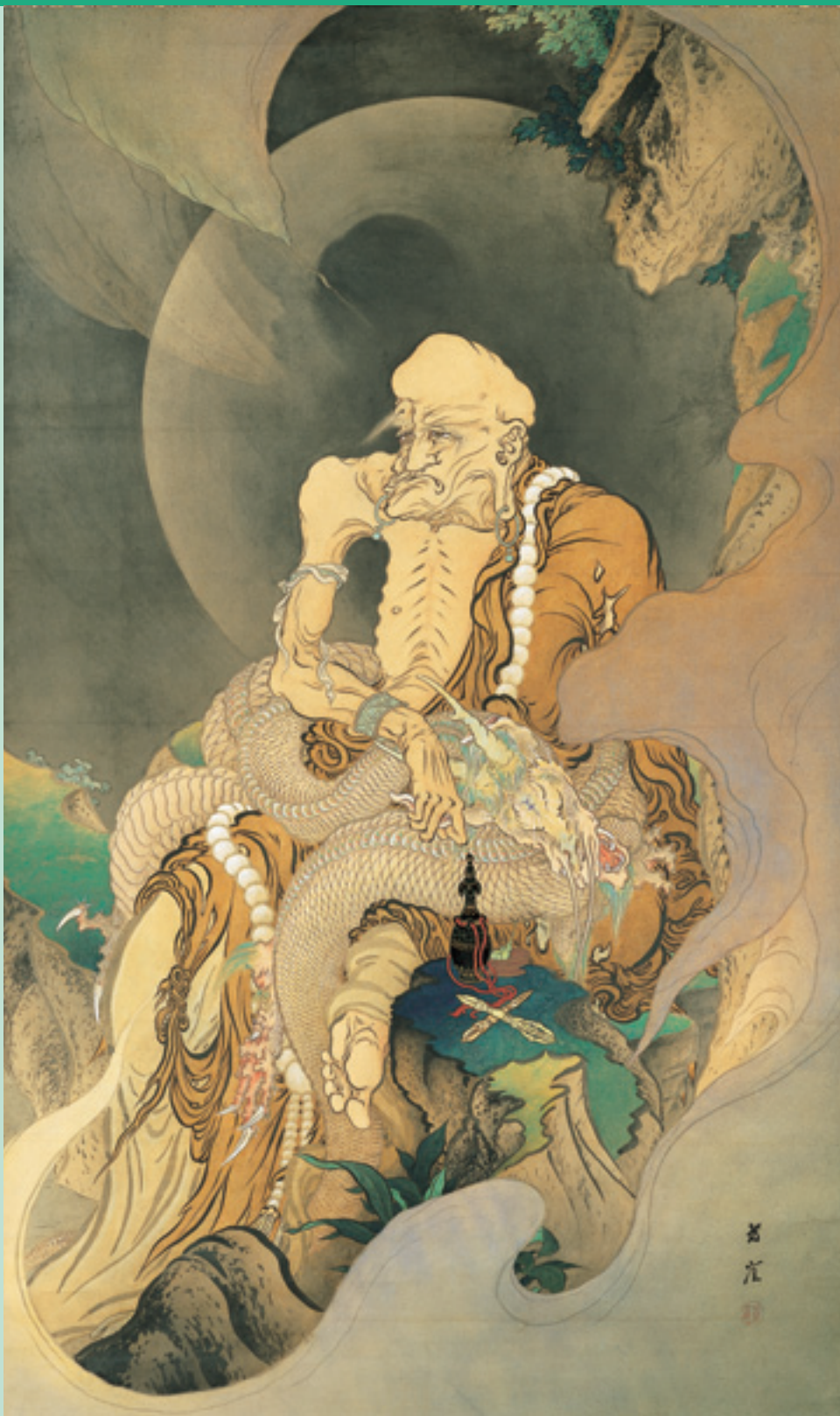
だ
よ
り

美
術
館

contents

開館30周年記念 館蔵名品展	[2 ~ 4]
平成18年度 新収蔵品紹介	[5 ~ 6]
平成19年度事業案内	[7]
お知らせ・貸館情報	[8]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]

表紙: 狩野芳崖「伏龍羅漢図」 館蔵名品展・後期より



ごあいさつ

このたび福井県立美術館では、「福井県立美術館 館蔵名品展」を開催します。

当館は、昭和52(1977)年11月1日に開館しました。以来、美術を愛好する皆様からのご支援をいただき、本年、平成19(2007)年に、開館30周年を迎えることとなります。これを記念し、当館コレクションによる名品展を前期・後期の2会期にて開催します。前期展では、洋画・版画・彫刻などの作品を、後期展では、日本画・工芸の作品を展示します。

会期中、作品の分野ごとに人気投票を行い、それぞれの分野の「ベスト作品」を発表します。いつもとは違った視点で、あらためて福井県立美術館のコレクションを楽しんでいただきたいと思います。

当館の作品収集にご協力いただいた皆様、とくに貴重な作品をご寄贈いただいた所蔵家、作家の皆様のご熱意とご好意に深く感謝し、厚くお礼申し上げます。

今後とも、当館の活動にご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

福井県立美術館

館長 伊藤 敏 幸



前期 鈴木千久馬「四人の女」

1. 展覧会名 **福井県立美術館 館蔵名品展**
2. 会 期 前期：平成19年4月5日(木)～5月6日(日)
後期：平成19年8月3日(金)～8月26日(日)
3. 休 館 日 4月16日(月)
4. 会 場 福井県立美術館 常設展示室、第3展示室
5. 開館時間 午前9時～午後5時(毎週金曜日は午後8時まで開館)
入場は閉館30分前まで
6. 観 覧 料 一般・大学生 100円(30名以上の団体は2割引)
高校生以下、70歳以上、身体障害者の方は無料。
7. 主 催 福井県立美術館

8. 関連事業

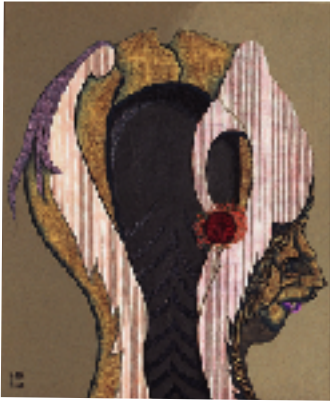
子ども鑑賞会

小中学生を対象に学芸員による鑑賞教室を行います。
5月5日(土)、6日(日)、8月9日(木)、19日(日)
14時～

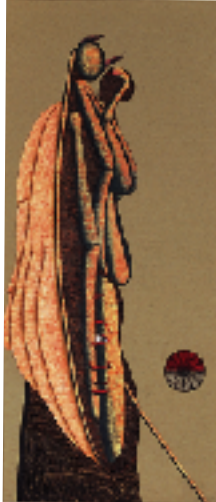
保護者(大学生以上)の方は観覧チケットが必要です。

同時開催 / 8月3日(金)～8月26日(日)

「あそびにおいでよ! 動物ファンタジーへ - ポーランドの絵本作家 ヨゼフ・ウィルコンの世界 -」展チケットにて、本展をご覧ください。



前期 小牧源太郎「この三つのもの」



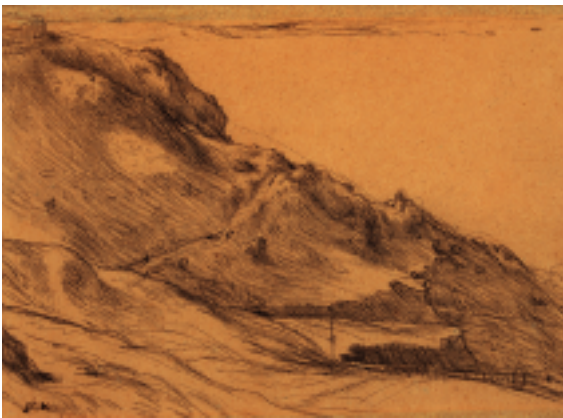
前期 小島信明「無題」

あなたが選ぶベスト作品

会場では、作品の人気投票を行っています。投票ボードに展示作品の写真がありますので、好きな作品を選んで、シールを貼ってください。分野ごとに、シール1枚をお願いします。あなたの最愛の作品は？皆に人気の作品は？いつもとは違

った気分で、福井県立美術館のコレクションを楽しんでみてください！

それぞれの分野の「ベスト作品」は、当館ホームページ等で発表の予定です。



前期 ジャン=フランソワ・ミレー「グレヴィルの海岸の岩壁」



前期 ジャック・カロ「二人のパンタロ・ネ」

解説ボランティア

当館解説ボランティアがご希望の方に解説サービスを行います。

4月14日(土) 21日(土) 28日(土)

8月11日(土) 18日(土) 25日(土)

13時30分～15時30分

観覧券チケットが必要です。



前期 宇佐美圭司「円形劇場・底抜け」



後期 菱田春草「落葉」左隻



後期 菱田春草「落葉」右隻



後期 岩佐又兵衛勝以「麻居士図」

【福井県立美術館沿革】

昭和52年11月、延床面積約4,500、展示面積約1,350で開館した当館は、その後増改築を行い、現在、本館延床面積約6,600、展示面積約2,100となっており、展示室数は6室となっています(常設展示室1、企画展示室3、ギャラリー展示室1、貸展示室1)。これらの展示室で、当館の主催事業や共催事業のほかに、貸館事業も含めて全部

で年間約100回の展覧会が開催されています。また改築された実技研修棟は、延床面積が約500あり、大規模な実技用のアトリエとして当館の特徴のひとつになっており、当館



の主催する実技講座や、友の会主催の実技講座、美術愛好家グループが開催する講座などで年間を通して使用されています。

開館した昭和52年には17点だった所蔵品は、平成18年度末では1,700点を超すコレクション総数となっています。

これらのコレクションは、開館以来逐次一般に公開されています。最初、所蔵品展と銘打って年間2、3回開催してきたコレクション展は、コレクションの増加に伴って、昭和63年から常設展として年間200日以上で開催が可能になりました。この常設展は、平成10年からは「所蔵品によるテーマ展」と名前を変え、企画展のようにそのつど一つのテーマを設け、所蔵品の中からテーマに従って作品を選び展示するようになりました。この「所蔵品によるテーマ展」は、年間7～9回程度開催され好評を博しています。さらにこれらのコレクションは、県内遠隔地に在住する県民の方のために、現在は年に3回「移動美術館」として敦賀市と小浜市で公開されています。昨年度からは、希望の学校への訪問展示事業も開始されました。

平成18年度 新収蔵品紹介

福井県立美術館では平成18年度に購入2点、寄贈5点、合計7点の新収蔵品がありました。以下これら7点の新収蔵品をご紹介します。



購入

日本画：安田鞞彦（やすだゆきひこ）作

「方丈閑日」

昭和12年 81.5 × 115.0 cm

紙本墨画淡彩

安田鞞彦（1884～1978）は、当館が収集に力を入れている岡倉天心やその弟子筋の画家たちとゆかりの深い画家で、天心の没後美術院が再興されたときの中心人物の一人です。

本作に描かれている人物は、大徳寺の室町時代前期の禅僧一休宗純と足利家の蝮川新左衛門です。一休は晩年、京都から少し離れた近郊に、いま薪寺と呼ばれている別庵酬恩庵を構えて、大徳寺と往復していたといわれています。この絵では、その方丈で蝮川新左衛門と閑談している様子が描いています。庭の枯山水の石組みはいまでも残っており、昔のままのものではないようですが、その石組みをこの画家らしく整理して描いています。一休の風貌については、現東京国立博物館保管の肖像を参考にしていると思われます。色彩が極度に制限され抑えられているのも、この清閑な情景を表現するのにふさわしいといえます。

本作は鞞彦が力を入れていた七絃会に出品されたもので、いくつかの重要な画集にも掲載された貴重な作品といえます。

掲載画集：『現代日本美術全集 安田鞞彦』昭和49年 集英社

『自選安田鞞彦画集』昭和46年 朝日新聞社

『米寿記念安田鞞彦展図録』昭和45年 朝日新聞社



購入

日本画：内海吉堂（うつみきちどう）作

「棧道高秋図」

明治30年 87.3 × 170.0

絹本着色

内海吉堂（1849～1925）は福井県敦賀に生まれ、四条丸山派の塩川文麟や森寛齋に学んだ後中国に渡って研鑽を積みました。帰国後は南画に転向し、日本南画協会の結成や京都の青年絵画共進会に参加。内国勲業博覧会や日本絵画協会等で褒状受賞の他、日本美術協会や文展でも入選し、京都画壇で活躍しました。山田介堂、長田雲堂とともに「越前三堂」と称されます。

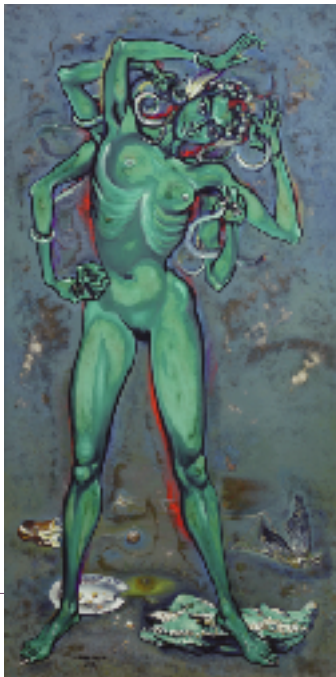
本作は、岡倉天心が主宰していた日本絵画協会の第三回絵画共進会（明治30年）で一等褒状を受賞し、当時高い評価を得た作品です。また昭和2年に東京府美術館で朝日新聞社主催で開催された「明治大正名作展覧会」にも出品された重要な作品で、まさに吉堂の代表作と言えます。



寄贈

日本画：安田鞞彦作「方丈閑日画稿」昭和12年頃
760×1110 鉛筆、墨、紙

購入作品「方丈閑日」の画稿で、作品研究のために重要な資料といえます。



寄贈

洋画：古沢岩美 (ふるさわいわみ) 作「メデューサ」
1960年 193.8×97.0 油彩、カンバス

古沢岩美は中央で活躍したシュール・レアリズムの画家として著名ですが、福井で新しい美術運動を展開していた「北荘画会」の招きで、1951年の夏に講習会の講師として来福しています。この関係で、16、17、18年度と3年連続で寄贈を受けています。またこの「メデューサ」の下絵が昨年度寄贈されています。



寄贈

工芸：河井寛次郎 (かわいかんじろう) 作
「三色釉水指」昭和37年頃
高14×直径21cm 陶器



寄贈

三浦小平二 (みうらこへいじ) 作
「青磁蓋物 (シルクロード)」
平成18年頃 高21×直径23cm 磁器

平成16年度に、県内敦賀市に本社を置く株式会社ジャクエツからの陶磁器20点の寄贈を受けましたが、今回はこれに続く寄贈で、これで当館のジャクエツ・コレクションは総数22点になりました。



寄贈

工芸：作者不詳「善財童子立像」9世紀 (唐時代)
高3.5cm 銅造鍍金

この小立像は、福井県大野市出身の岡島辰五郎氏が旧蔵していたもので、当館で所蔵している岡島コレクションに加えてほしいとの趣旨で寄贈されました。

平成19年度事業案内

平成19年度の企画展、所蔵品によるテーマ展、移動美術館は下記の通りです。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

企画展	所蔵品によるテーマ展	共催展・移動美術館など
<p>前期：4月5日(木)～5月6日(日)(洋画、版画、彫刻) 後期：8月3日(金)～8月26日(日)(日本画、工芸)</p> <p>福井県立美術館館蔵名品展</p> <p>平成19年は、福井県立美術館が開館して30周年となります。これを記念した名品展を前期・後期の2会期にて開催します。会期中、作品の分野ごとに人気投票を行い、それぞれの分野の「ベスト作品」を発表します。あなたの最愛の作品は？皆に人気の作品は？いつもとは違った視点で、美術館コレクションを楽しんでみてください。</p>  <p>パブロ・ピカソ 「ランプの下の静物」</p>  <p>狩野芳崖「伏龍羅漢図」</p>	 <p>安田鞞彦「方丈閑日」</p> <p>5月11日(金)～6月17日(日)</p> <p>平成18年度新収蔵品紹介</p> <p>安田鞞彦「方丈閑日」 内海吉堂「棧道高秋図」ほか</p>	<p>4</p> <p>5</p>
<p>8月3日(金)～8月26日(日)</p> <p>あそびにおいでよ！動物ファンタジーへ ポーランドの絵本画家ヨゼフ・ウィルコンの世界</p>  <p>「ポーリッシュブルースと動物の彫刻たち」</p> <p>ヨーロッパで高い評価を受ける絵本・彫刻作家ヨゼフ・ウィルコン。廃材や流木、ブリキを用いて作られた表情豊かな動物たちはユーモラスで愛らしく、作者の動物や自然に対する愛情と優しい眼差しを感じさせます。本展ではそれらの動物たちとともに、絵本とその原画の展示により、個性的なキャラクターをストーリーを交えてご紹介します。イマジネーションと楽しさに溢れる世界をこの夏、体験してみてください。</p>	 <p>三上誠「蓮と少女」</p> <p>6月21日(木)～7月22日(日)</p> <p>三上誠 「蓮と少女」 「F市曼荼羅」 「灸点万華鏡1」ほか</p>  <p>ウィリアム・ブレイク「ヨブ記(かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった)」</p> <p>8月31日(金)～9月30日(日)</p> <p>東西の神と仏 作者不詳「二十五菩薩来迎図」 ウィリアム・ブレイク「ヨブ記」 堅山南風「追おく」ほか</p>	<p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>8月4日(土)～8月15日(水)</p> <p>移動美術館小浜展1 [会場：小浜市・福井県立若狭歴史民俗資料館]</p>
<p>10月5日(金)～11月4日(日)</p> <p>華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界 ～ガレ、ドーム、ラリック～</p> <p>19世紀末のヨーロッパでは、新しい装飾美術運動であるアール・ヌーヴォーが花開き、続いて20世紀の初頭には、ヨーロッパおよびアメリカを中心にアール・デコが興隆しました。本展では、エミール・ガレ、ドーム兄弟、ルネ・ラリックのフランスを代表する三大ガラス工芸の巨匠の作品を一堂に展示し、アール・ヌーヴォーからアール・デコまで、贅沢で華麗な美の世界を紹介します。</p>  <p>ガレ「脚付杯(おそろくせいヨウオウキナグサ)」 北澤美術館蔵</p>	<p>10月5日(金)～11月4日(日)</p> <p>小野忠弘の表現 「化石」 「沈黙と砂」 「無題」ほか</p>  <p>小野忠弘「沈黙と砂」</p> <p>11月30日(金)～1月14日(月)</p> <p>岡島コレクション/工芸 後藤祐乘「連獅子図目貫」 後藤乗真「貝尽図目貫」 政秀「虫尽図前金具」 高橋記内「龍透鏡」ほか</p>  <p>後藤祐乘「連獅子図目貫」</p>	<p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>11月8日(土)～9月21日(金)</p> <p>移動美術館敦賀展 [会場：敦賀市・ブラザ萬象]</p> <p>11月16日(金)～11月25日(日)</p> <p>第58回県総合美術展 [共催展]</p>
 <p>「迦樓羅王立像」 福井県立若狭歴史民俗資料館保管</p> <p>2月29日(金)～3月23日(日)</p> <p>海を越えてきたみほとけたち(仮称)</p> <p>日本海を挟み、古く大陸の玄関口として位置していた福井。多くの人や文物が海を越え、この地へもたらされてきました。その一つに仏教美術があり、県内にはそのことを示す多くの優れた作品が残されています。本展はこれら海を越えてもたらされた県内所蔵、ゆかりの仏画・教典・墨蹟・仏教工芸を展示し、仏の美と文化交流の一端を紹介するものです。</p>	<p>1月3日(木)～1月14日(月)</p> <p>新春特別展示 「新春干支くし」</p> <p>アドリアン・コラールト 「馬上の聖ゲオルギウス」 狩野芳崖「柳下放牛図」 浅野竹二「祭の鶏」ほか</p>  <p>浅野竹二「祭の鶏」</p>	<p>12</p> <p>1</p> <p>2月10日(日)～2月17日(日)</p> <p>福井県立美術館実技講座 受講生作品展</p>
<p>3月5日(水)～3月9日(日)</p> <p>福井県立美術館友の会 実技講座受講生作品展</p> <p>3月14日(金)～3月25日(火)</p> <p>移動美術館小浜展2 [会場：小浜市・福井県立若狭歴史民俗資料館]</p>	<p>1月19日(土)～2月23日(土)</p> <p>風景と山水 小島亮仙「山水図」 山田介道「初夏山水図」 原雅幸「樹間の雪景」ほか</p> <p>2月29日(金)～3月31日(月)</p> <p>横山操とその仲間たち 横山操「川」 川端龍子「花下行人」 米谷清和「朝」ほか</p>  <p>横山操「川」</p>	<p>2</p> <p>3</p>

お知らせ

< 4月～8月の休館日について >

4月16日(月) 5月7日(月)～10日(木) 21日(月) 6月4日(月) 18日(月)～20日(水)

7月9日(月) 23日(月)～8月2日(木) は、展示替え、館内メンテナンス等のため、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [4/25 8/2]

4/25～5/6	淡々、百画繚乱 生涯百年・大村武士回顧展	5/25～5/27	第35回書法研究石門展	6/27～7/1	第23回福井県写真作家連盟展
4/27～4/30	第34回「失われゆく自然・人間」展	5/31～6/3	第16回福井謙慎木曜会書展	6/28～7/1	第22回日本画展 2007
4/27～4/30	グループ「樹の会」作品展	5/31～6/3	第22回沙久羅会日本画展	6/28～7/1	第22回イーゼル会デッサン展
5/3～5/6	雨森一仁 米寿記念 & パレット・JN & 超現会(大阪)合同作品展	6/1～6/3	藤島高校美術部展	7/3～7/8	吉田俊雄卒業写真展「あいの風」
5/3～5/6	前川幸雄展 - 詩と写真でつづる7年 -	6/7～6/10	第57回県書道展・県現代書作家展	7/5～7/8	第48回九龍社書展
5/11～5/13	灰谷卓祐 人物画展	6/14～6/17	笑夢の会水彩画展	7/5～7/8	第33回福井県デザインコンクール作品展
5/16～5/20	第33回福井県水墨画協会展	6/14～6/17	第40回記念 福井玄潮会書展	7/5～7/8	Spring Art 三人展
5/16～5/20	第6回水彩画を楽しむ会作品展	6/14～6/17	JWA北陸支部福井地域会会員作品展	7/10～7/16	写真展 中村吉之介と「北陸の仲間たち」
5/18～5/20	福井愛石同好会 第47回 愛石展	6/21～6/25	第60回記念 示現会巡回福井展	7/12～7/16	第8回力力・斜展
5/24～5/27	第16回紫陽花展	6/21～6/24	第21回白灯会洋画展	7/12～7/16	第47回べんべん会展
5/24～5/27	第8回福井水墨画壇「こころ・趣展」	6/22～6/24	第28回書展会展	7/18～7/22	第13回玲風会 日本画展
		6/22～6/24	家族に贈るキルト展	7/19～7/22	ブレアデス会洋画展
		6/27～7/1	三田松一郎 エンボッシング展	7/20～7/22	第21回表装展(福井県表装組合)

FUKUI 近隣美術館・博物館スケジュール

福井県立歴史博物館

福井市大宮2-19-15 TEL:0776-22-4675
休館日：第2・第4水曜日、4月25日(水)～27日(金) 6月25日(月)～7月4日(水)

福井・石川県文化交流企画 **白山 - 祈りと癒しの山 -**
4月28日(土)～6月3日(日)

一般 400円 / 70歳以上 200円 / 大学・高校生 300円 / 小・中学生 200円 / 30名以上の団体は2割引

福井市美術館 [アートラボふくい]

福井市下馬3-1111 TEL:0776-33-2990
休館日：月曜日(祝日の場合は火曜日)

企画展 **「中村征夫写真展 海中2万7000時間の旅」**
6月9日(土)～7月8日(日)

一般 800円 / 大学・高校生 500円 / 小・中学生 200円 / 20名以上の団体は2割引

広報板 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田橋大萱町 1740-1 TEL:077-543-2111

松園・遊亀・不矩
松園賞・文化勲章受賞の
女流日本画家たち
4月21日(土)～6月3日(日)

女性初の文化勲章受賞画家上村松園と、文化勲章・上村松園賞の双方を得た小倉遊亀、秋野不矩。魅力ある三画家の作風はいかに形成され、近代日本画史上にどのような光彩を放っているかを検証します。



上村松園「舞妓」

一般 900(700)円 / 高大学生 650(500)円 / 小中学生 450(350)円
()内は前売および20名以上の団体料金

ダイアローグ コレクション活用術 vol.12

6月16日(土)～7月29日(日)

アーティストならではの斬新な視点を導入した、一昨年度に続くコレクション活用企画第2弾。滋賀県に関わりを持つ平面作家、伊庭靖子、児玉靖枝、佐川晃司、渡辺信明の4人が、それぞれ自作と本館コレクションとの「対話」を試みます。




岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

所蔵品による特別展示
坂井範一展
4月10日(火)～5月6日(日)

岐阜ゆかりの洋画家、坂井範一(さかいはんいち)川(1899-1981)の作品を展示します。坂井範一は新制作協会を中心に活躍しました。岐阜の美術界をリードした画家であり、教育者としても知られています。本展では、各年代ごとに特徴ある作品を選び、絵画の研究に取り組んだ坂井範一の画業を紹介いたします。



一般 320(260)円 / 大学生 210(160)円 / 高校生以下は無料
()内は20名以上の団体料金

川崎小虎と東山魁夷展

7月20日(金)～8月26日(日)

岐阜市生まれの日本画家、川 小虎。大正から昭和にかけて新しい日本画の開拓につとめた小虎は、傑出した風景画家、東山魁夷の岳父でもありました。本展では、近現代日本画の歴史に重要な足跡を残したこの2人の画家を中心に、川 家の芸術的な系譜をたどります。

一般 1000(900)円 / 大学生 800(700)円 / 小・中・高校生無料
()内は20人以上の団体割引、前売りは上記入館料金より200円引き

三重県立美術館

津市大谷町 11 TEL:059-227-2100

「開館25周年記念 シャガール展
愛と夢、そして幻想」
4月14日(土)～6月3日(日)


マルク・シャガール(1887-1985)はロシア系ユダヤ人として生まれました。彼の生きた時代は、二度にわたる世界大戦やロシア革命など、激動と変革の波の渦巻く中にあり、多難な人生を経験しながらも、素晴らしい芸術を残しました。彼の画業は20世紀の絵画史の中で重要な位置を占めており、その神話と神秘主義に満ちた作風は世界中の人々を魅了し賞賛の念を抱かせます。本展は、国内外のシャガールの名品を集め、油絵、素描、版画など多彩な技法によるシャガールの芸術をご紹介します。

一般 1,100(900)円 / 高大学生 900(700)円 / 小中学生 600(400)円
()内は20人以上の団体割引及び前売料金

「コレクション展 Part1 - 水彩素描のすべて」

6月9日(土)～7月16日(月)

三重県立美術館が収集してきた作品の中から、作家の息吹が直截に伝わってくる水彩画、素描のコレクションを約17年ぶりに一堂に展示します。



三宅克己「箱根双子岳」1933年

一般 500(400)円 / 高・大学生 400(300)円 / 小・中学生 無料
()内は20人以上の団体割引及び前売料金